

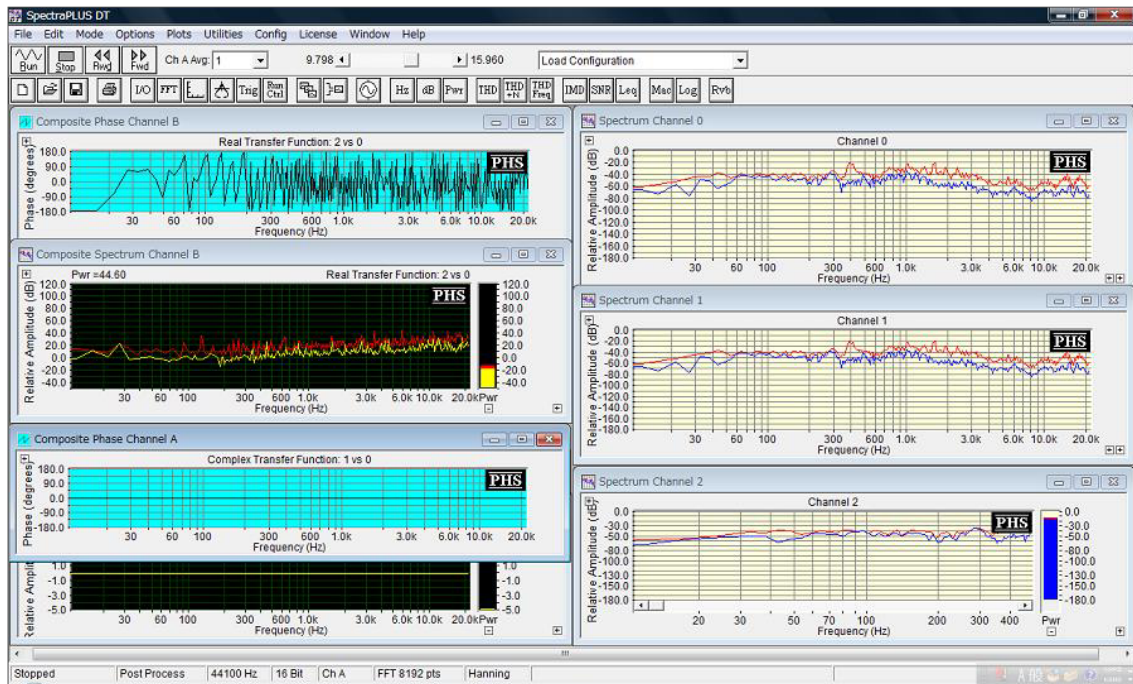


Pioneer Hill Software

## SpectraPLUS-DT Industrial Edition

FFT スペクトラムアナライザー・マルチ・チャンネル仕様版

Post-Process/再生・後処理モード操作概説



# SpectraPLUS-DT

## 操作概説

本ソフトの基本操作は姉妹モデル SpectraPLUS Professional Edition に準拠いたします。従いまして、ここでは非準拠パートを記述します。必要に応じて SpectraPLUS-DT の Help メニューをご参照下さい。

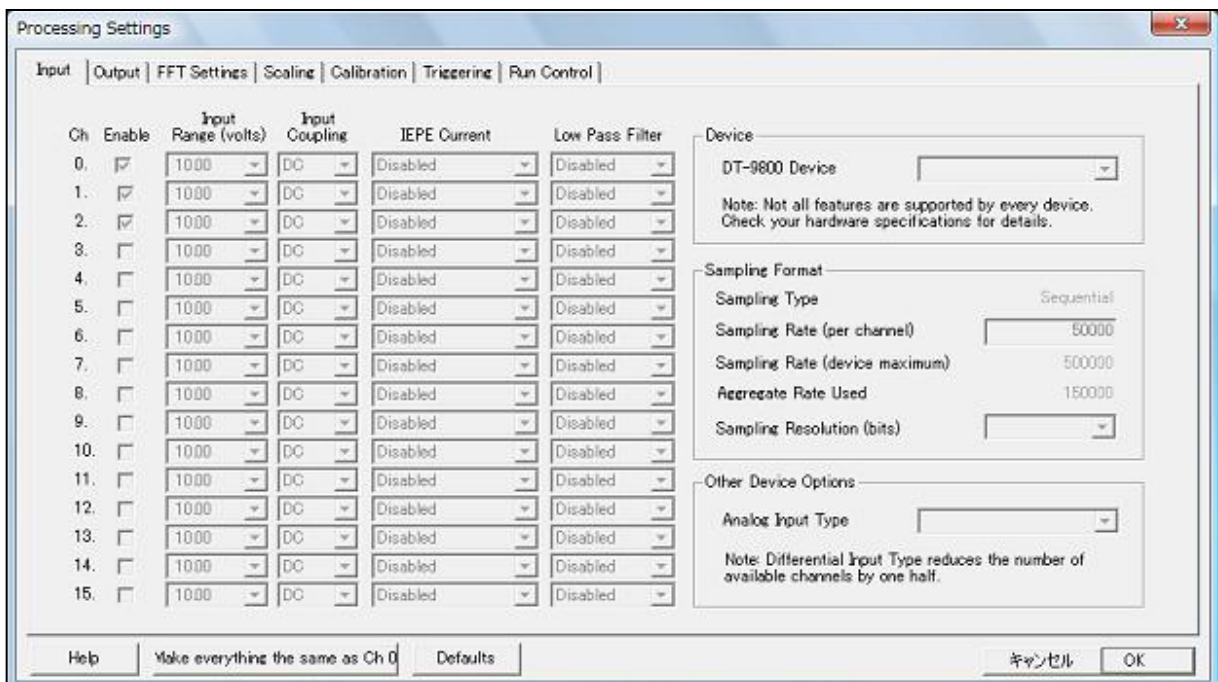
本ソフトの全機能を使用するには専用の信号入力デバイス(ADC)を必要とします。専用デバイスを準備できない環境で試用する場合は、デバイスを必要としない「Post-Process」モードをご利用下さい。当該モードでは既存 WAV ファイルをロードすることにより再生・後処理操作で各処理機能をご覧頂くことができます。

### 主なメニュー・ダイアログ構成:

#### <Options> <Processing Settings>メニュー

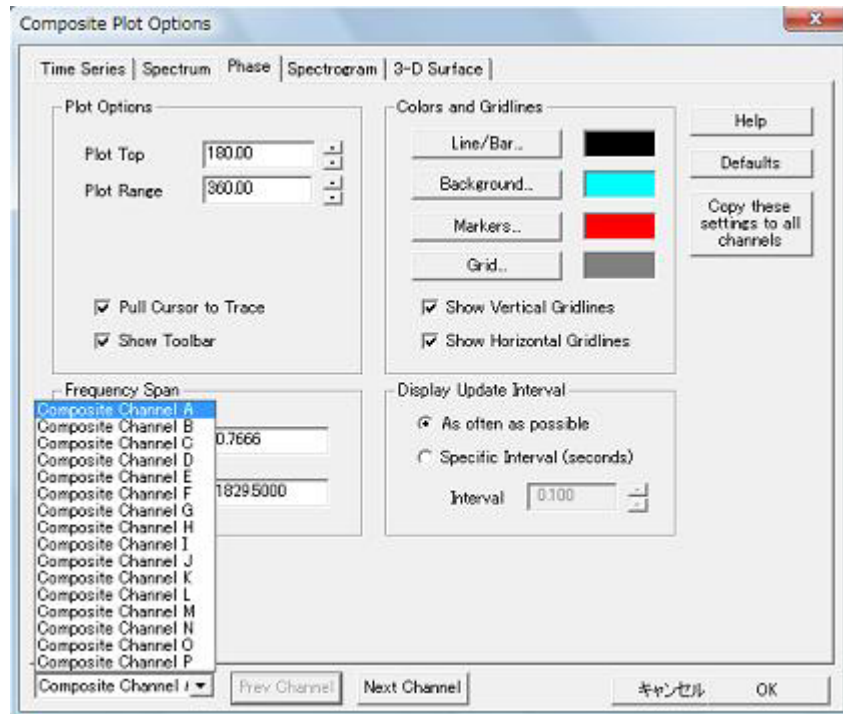
Processing Settings ダイアログに設けられた各タブでは次の設定を行います。

- Input: デバイスなどの信号入力環境を設定します
- Output: デバイスの信号出力環境を設定します。デバイス非接続時は無効です
- FFT Settings: FFT 処理条件を設定します
- Scaling: Plot(ビュー/グラフ)軸スケール、ウェイトイングフィルタ、PSD、マイクロフォン特性補償機能を設定します
- Calibration: 絶対値表示をするためのレベル校正環境を設定します
- Triggering: トリガー機能環境を設定します
- Run Control: プログラムのラン条件を設定します
- Make everything the same as Ch 0: ダイアログ下部に配されたこのボタンをクリックすると、全15chの各条件を同一に設定することができます



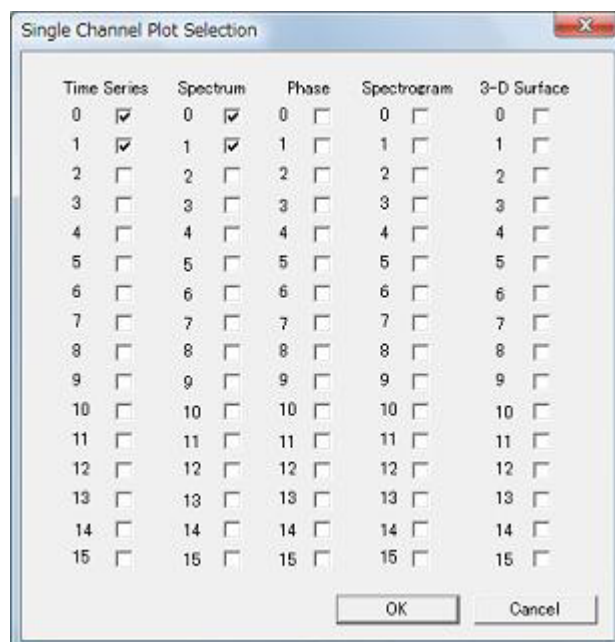
## <Options> <Plot Options>メニュー

本ダイアログでは各 Plot(ビュー/グラフ)の表示条件をチャンネル毎に行います。全chの条件を同一に設定するには「Copy these settings to all channels」ボタンを使用します。



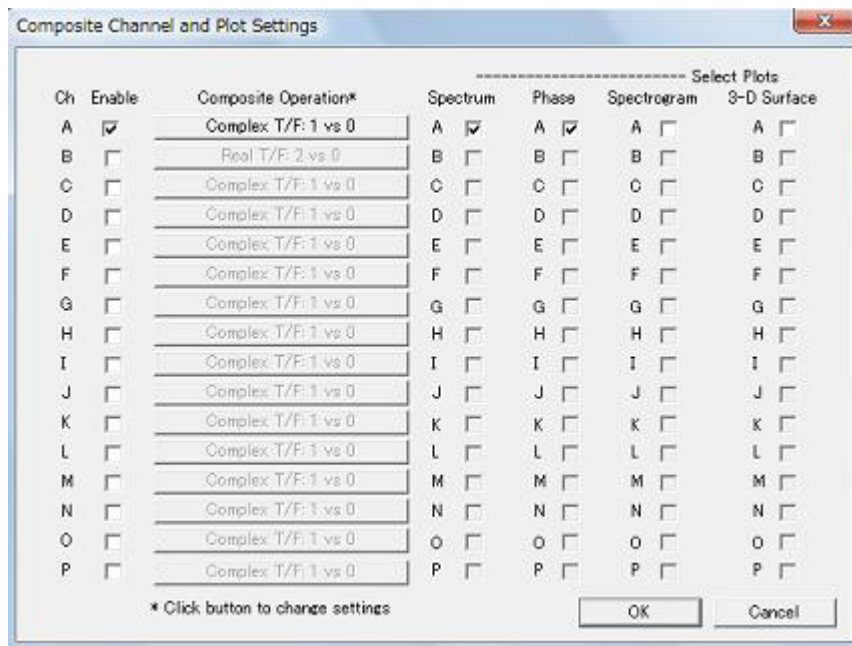
## <Plot> <Single Channel Plots>メニュー

本ダイアログでは各chで表示する Plot(ビュー/グラフ)を選択、設定します。



## <Plot> <Composite Channel and Plot Settings>メニュー

本ダイアログでは伝達関数処理対象チャンネルと Plot(ビュー/グラフ)を選択、設定します。

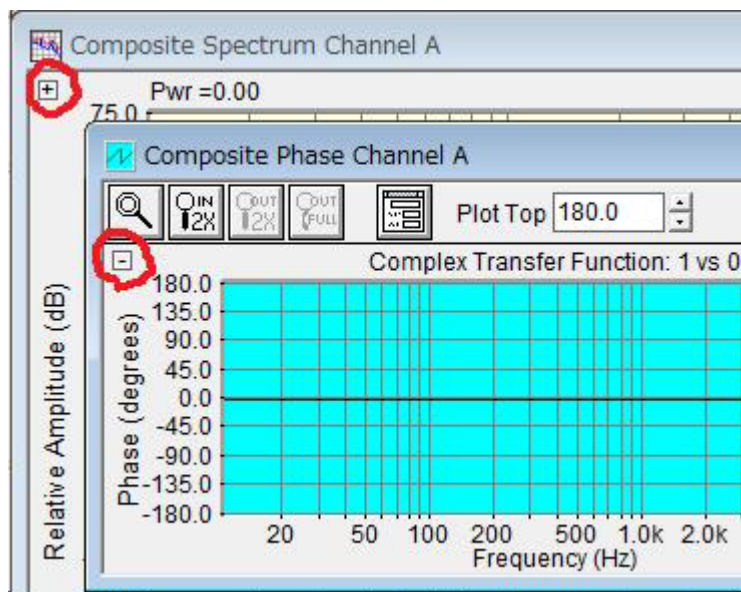


## <Plot> <Toolbars>

Main Toolbar / Second Toolbar / Lower Status Bar の ON/OFF を行います。

## <Plot> <Plot Toolbars>

各 Plot(ビュー/グラフ)のアイコン Toolbar の ON/OFF を行います。この操作は前述の Plot Option ダイアログ及び、各 Plot(ビュー/グラフ)に配されたコントロールボタンで行うこともできます。



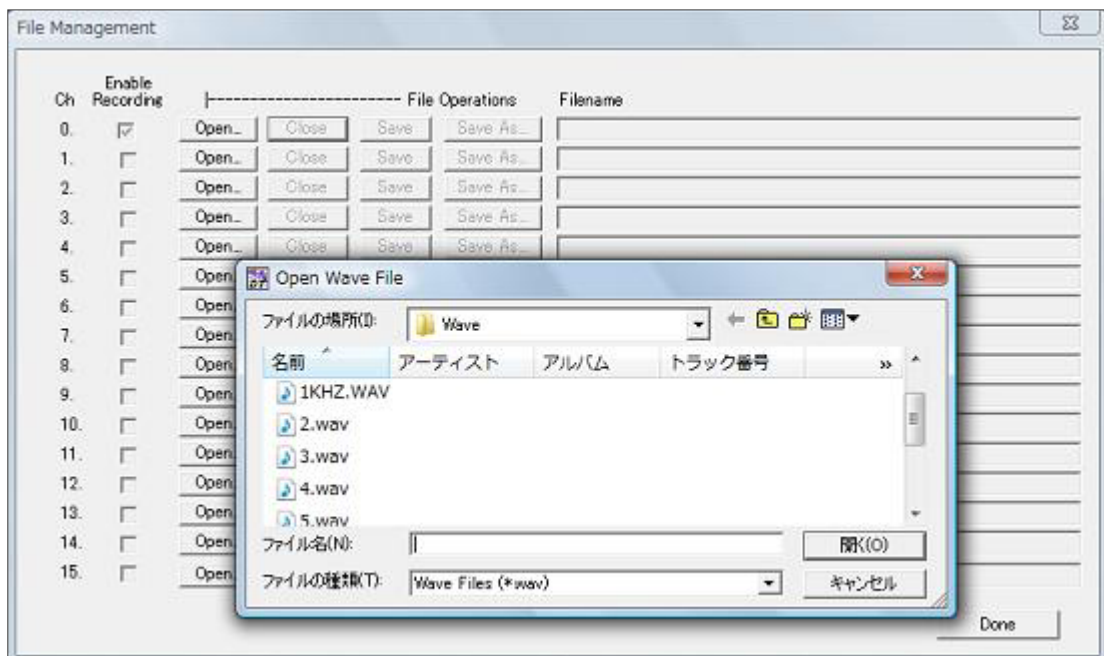
## 操作概要:

SpectraPLUS-DT には「Single」と「Composite」と呼ぶ二つのチャンネルモードが有り、それぞれは独立した機能を持ちます。前者はアナライザーの取得したデータをダイレクトに表示するためのFFT処理一次チャンネル、後者はその取得したデータを演算表示(伝達関数)するための二次チャンネルです。「Composite」チャンネルモードはオプション対応(Opt/01)です。

ここではデバイスの無い環境を想定し、「Post-Process」モードによって機能概要をご覧頂くための操作手順を記述します。当該モードでは.WAV ファイルをロードすることにより各機能をご覧頂けます。適当なご保有WAV ファイル(サンプリング等のファイル仕様は統一します)をご使用下さい。

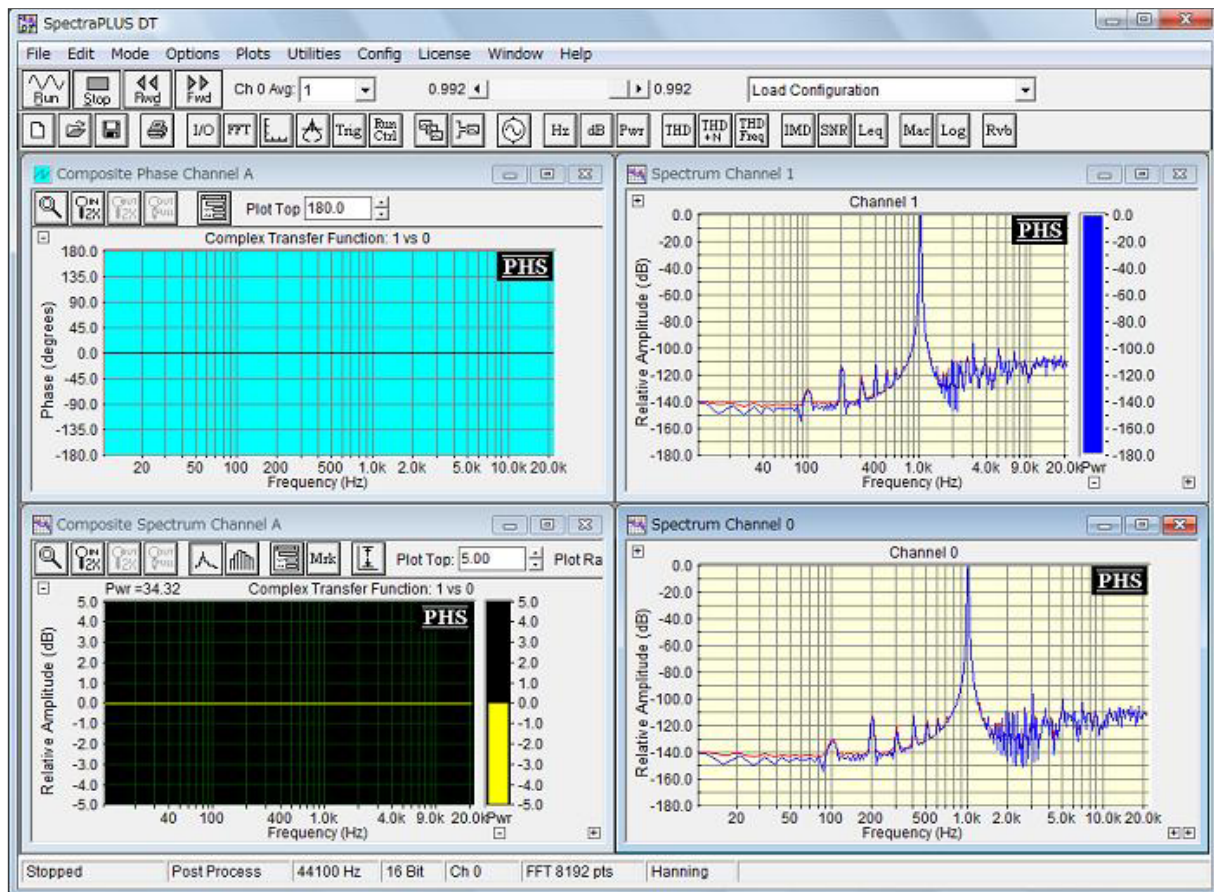
## 手順:

1. <Plots><Single Channel Plot Selection>メニューをクリックします
2. ダイアログで「Spectrum」のch「0」と「1」をマークします。OK をクリックします
3. <Plots><Composite Channel and Plot Settings>メニューをクリックします
4. ダイアログでch「A」の「Enable」「Spectrum」「Phase」をマークし、OK をクリックします
5. <Windows><Tile>をクリックして画面を自動配列します
6. 表示Plot(ビュー/グラフ)のCh「0/1」が信号入力チャンネル、ch「A」が伝達関数演算表示チャンネルです。チャンネル識別は各 Plot のタイトルバーに表示されます
7. <Mode><Post Process>メニューをクリックします
8. <File><Open>メニューをクリックし、「File Management」ダイアログを表示します





9. ch「0」の「Open」ボタンをクリックしてロードするファイルを選択します
10. 同様にch「1」の「Open」ボタンをクリックしてファイルを選択します
11. 「Done」ボタンをクリックして閉じます
12. ツールバーの「Run」アイコンをクリックしてアナライザーをスタートします

13. 処理結果が次頁のように表示されます
14. 必要に応じてスケール感度などの調整を行います。
15. ch「0」と「1」にはロードした信号の Spectrum Plot 画面が表示されます。ch「A」の Phase と Spectrum Plot 画面には関数処理結果が表示されます。



備考:

- 左側の2つの Plot にはそれぞれアイコンバーが表示されていますが、右側の Plot には表示されておりません。これを表示するには各 Plot 左上隅の  ボタンを使用します。また、必要に応じてY軸感度等を適時調整して下さい
- 右側上の Plot にはバーグラフ(Total Power)が表示されていますが下の Plot にはありません。これを表示するには Plot 右下隅の  ボタンをクリックします
- 「Single Channel」「Composite Channel」ともに最大 16 チャンネルに対応します